

《第5回 ICDアワード受賞者》

異文化のあいだを繋ぐ歯科医療



昭和医科大学歯学部

呉 悠

この度は、国際歯科学士会ICDアワードという名誉ある賞を賜り、心より光栄に存じます。本賞の受賞は、これまでの歩みを評価していただけたように感じられ、大変嬉しく思っております。

私には幼少期に中国で生活した経験があります。二つの文化や言語のあいだで過ごした日々は、当時は特別なものとは意識していませんでしたが、振り返ると、一つの価値観に縛られずに物事を捉える視点を育ててくれたと感じています。この感覚が現在の考え方の土台となりました。

昭和医科大学歯学部では歯科薬理学講座で研究に取

り組み、その成果をスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）にて発表しました。難航する場面もありましたが、この過程で歯科医学が多くの研究者の積み重ねに支えられていること、また成果を共有する重要性を学びました。

北京大学口腔医学院での海外研修では、中国の歯科医療の現場に触れ、医療制度や患者背景の違いにより治療の考え方が異なることを知り、歯科医療を広い視点から捉える必要性を実感しました。さらに、イギリスやオーストラリアの研究者との交流を通して、学問が国際的な繋がりの中で発展していることへの理解を深めました。

また、私はドイツに端を発する球体関節人形の制作にも取り組んできました。その過程で、人のかたちや表情を見つめ続けた経験は、背景や内面に目を向ける姿勢にも繋がっていると感じています。

これらの経験から、歯科医療の発展には国や文化を越えた相互理解が欠かせないと考えています。これまでの歩みを礎とし、異なる価値観のあいだを繋ぐ存在として貢献したいと考えています。

今後は大学院に進学し、研究と臨床の両面から歯科医学を深め、将来的には海外でも研鑽を積みながら国際的な視野で貢献できる歯科医師・研究者を目指してまいります。最後になりましたが、これまでご指導くださった先生方、そして支えてくれた家族に心より感謝申し上げます。



推薦者の昭和医科大学歯学研究科長 高見正道先生と